

丹波焼の里 ミュゼシター

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

2025
autumn
winter

vol.
38

丹波の手仕事 匠の技 24

大熊窯「イッチン描き」
大上 巧氏 伊代氏 恵氏

学芸員 私のオススメ作品

インタビュー

上立杭本窯跡・下立杭新窯跡
—江戸時代後期の丹波焼窯跡の発掘調査から—
山崎 敏昭氏



大熊窯 工房

丹波の手仕事

匠の技 24

大熊窯「イッチン描き」

大上巧氏・伊代氏・恵氏

国道372号線、通称デカンシヨ街道の上小野原交差点から県道292号線へ入り南下すると、しばらくして道沿い左手に長い登窯が現れます。これは「尾中の登窯」と呼ばれる割竹式登窯で、丹波篠山市の景観重要建造物に指定されています。

今回はその登窯を共同所有される大熊窯をお訪ねしました。広い敷地の一角にある工房のガラス戸越しに、作陶中の背中を拝見していると、真剣勝負の気迫が感じられ、声をかけることをためらいましたが、笑顔で迎えていただきました。



大上伊代 作 干支(巳)

代々続く大熊窯の巧氏は三人兄弟の長男に生まれ、大学卒業後、京都 宮永東山二代、三代に師事した後、25歳の時に大熊窯に戻り家業に従事されます。

丹波焼の伝統を受け継ぎ、昔ながらの味わい深い作品を数多く作ってこられています。代表作とも言える「海老絵皿」、「海老徳利」に用いる技法の「イッチン描き」の技を拝見しました。

白い化粧土を生掛けした素地に、弁柄を含ませた筆で海老の胴と尾を描き、その後スポイドを用いて曲がった足、楕円の目、最後に長い髭を一気に描き、海老絵が完成しました。

2009年には丹波立杭焼伝統工芸士に認定され、その後は丹波立杭陶磁器協同組合の理事長として、さらにその後「登窯修復実行委員会」の委員長として、地域のシンボルの復興に力を注いでこられ、2021年には兵庫県文化賞を受賞されました。

現在は次女の伊代さん、三女の恵さんも陶芸の道に入り、一人の作家として活躍されています。娘さんの活動を、優しく見守っておられる様子がとても微笑ましく、次世代のため、地域のために、持てる力を惜しみなく注ぎ続けておられるその姿にエールを送ります。



大上恵 作 花鍋大皿



大熊窯 大上 巧・伊代・恵

〒669・21135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭尾中1
電話 079・597・2345

文・藤枝 憲文 写真・迫田 隆



令和7年春の叙勲

瑞宝単光章 受章

清水昌義氏（丹京窯）

丹波焼に従事して50年を超えました。18歳で大上昇氏に弟子入り。丹波焼の「鍋」や「海老絵」などの伝統技法を大切にしながら、自分らしさのアイデアを込めながら作陶に取り組んできました。丹波立杭陶磁器協同組合理事長としても地域に貢献。2018年には「伝統工芸士」に認定。19年には経済産業大臣表彰、県技能顕功賞を受けました。今回の受章は「先輩たちや仲間たちの刺激に育ててもらって頂いたもの。仲間と共に次世代へ継承していきたい」と語られます。



取材・写真 迫田隆

「CREATIVE TOURISM AWARDS 2025」受賞

2025年2月12日、クリエイティブ・ツーリズム・ネットワーク※は、丹波焼が「CREATIVE TOURISM AWARDS 2025」の「World Best Creative Journey」を受賞したと発表しました。丹波焼の独自性と文化遺産、地域の生業を持続可能な観光モデルとして確立する総合的なアプローチが評価されました。

「CREATIVE TOURISM AWARDS」の受賞は日本で初めてです。

※クリエイティブ・ツーリズム・ネットワーク

クリエイティブツーリズムの発展を目的とした世界的な非営利組織。EUの支援を受けて2010年に設立。

取材 増田知子

Kamanijo がオープン

2025年3月21日、丹波焼インフォメーションセンター「Kamanijo」がオープンしました。愛称の「Kamanijo」は「登り窯のある場所」↓「かまの所」↓「かまんじょ」という意味で命名されました。

目の前には、最古の登窯（兵庫県有形民俗文化財）、反対側には陶の郷や兵庫陶芸美術館、虚空蔵山が望めます。観光の拠点として、休憩所としてご利用ください。

- ・利用できるサービス
- ・路地歩きガイド受付
- ・観光案内
- ・多目的トイレ
- ・授乳室
- ・ドリンク自動販売機
- ・デジタルマップ
- ・レンタルサイクル
- ・フリーWi-Fi



取材 増田知子

写真 Kamanijo

兵庫陶芸美術館創設「YH賞」第4回受賞作品決定



撮影 高瀬智司

2021年に創設した「YH賞」の第4回受賞作品が、岩村遠氏（1988年〜）の《Neo Jomon: Stacking Neighbor》（2024年）に決定しました。岩村氏は、陶によるユニークな人物像をメインに制作しながら、絵画やドローイング、デザインなども手がける現代作家です。土による素朴な土着性を残しつつ、人物像はキャラクター風の明るくポップなイメージで、人間という根源的で普遍的なテーマを独自に展開し、新鮮なインパクトを放つ作品です。

学芸員 マルテル 坂本 牧子

窯の熱さを体感

登窯公開焼成



2025年5月30日から6月2日に丹波焼最古の登窯（130年前に築窯された兵庫県有形民俗文化財）の公開焼成が行われました。9つの「袋」といわれる焼成室の中には窯元や「こども陶芸教室」や一般の方の作品が2000点入れられています。

昼夜を問わず薪を投入し3日目の夜には窯の火先といわれる『ハチノス（蜂の巣）』から炎が噴き出しました。



多くの一般の方が窯の焼成を見学し、また時間によっては薪を入れることもでき、窯の温度を感じ体験することができた。1週間後に窯出しが行われ、岡山から一般参加した30代男性は「器に炎の勢いが感じられていて、いいですね」と器に見入っていました。



取材 上田 智津子
写真 丹波立杭焼陶磁器協同組合

「逸品」

学芸員 私のおススメ作品



花瓶 ルーシー・リー 1978年 兵庫陶芸美術館蔵

シンプルながらも、モダンでエレガント。世界のデザインやライフスタイルにも影響を与え、20世紀の陶芸をモダンイズムで革新した作家のルーシー・リー（1902〜1995）の代表作です。今、見ると、とてもシンプルな器に見えるかもしれませんが、このような薄作りで優雅なフォルムは、個人作家がつくる実用品には、あまり例を見ないスタイルでした。

オーストリア・ウィーンの裕福なユダヤ人家庭に生まれたリーは、建築や芸術、工芸などが「総合芸術」として融合されることを標榜した「ウィーン工房」の美意識に触れて育ちました。1921年より六年間、ウィーン工業美術学校で陶芸を学び、ブリュッセル、パリの万国博覧会で連続受賞するなど、作家として頭角を現していました。1938年、ナチスの迫害を逃れてイギリスに亡命。翌年、ロンドンに自宅兼工房を構え、終生、そこで作陶生活を送っています。

ロクロによる超薄作りのフォルムや色鮮やかな釉薬、古代土器から着想を得たという揺るぎの線模様など、華やかで洗練されたスタイルの器は、近代都市のモダンな生活様式に呼応するようにして生まれました。本作品は、ロクロで挽いた複数のパーツを接合して作ったユニークなフォルムが特徴的です。特に小さく絞り、高さを持たせた高台の作りは、リーが創出した「新しいスタンダード」といえるものでしょう。現代の器の中にもそのエッセンスが生かされたものが少なくありません。

学芸員 マルテル 坂本 牧子

源泉かけ流しの日帰り天然温泉



緑に囲まれた広い露天風呂でゆったり、のんびり、ほかほか。農産物直売所、軽食コーナーも併設、1日ゆっくりお過ごしください。



- ◆ 入浴料 ◆
- 大人 800 円 (中学生以上)
- 小人 400 円 (小学生)
- ※小学生未満 無料

営業時間
AM10:00 ~ PM9:00 (PM8:30 受付終了)
※営業時間は変更になることがあります。

定休日 毎週火曜日 (祝日は営業)

〒669-2153
兵庫県丹波篠山市今田町今田新田 21-10
TEL.079-590-3377
<http://yume-konda.com/>

HP Twitter Instagram

文化庁 拠点施設「陶の郷」を中核とした丹波焼の郷文化観光推進事業
文化学術調査研究事業

上立杭本窯跡・下立杭新窯跡

—江戸時代後期の丹波焼窯跡の発掘調査から—

丹波篠山市教育委員会 文化財調査員 山崎 敏昭 氏



丹波焼の窯跡の発掘調査がはじまっ
きつかけをお聞かせいただけますか。

2023年から、丹波立杭陶磁器協同組合と丹波篠山市、関係機関で取組んでいる、文化庁の補助事業「拠点施設「陶の郷」を中核とした丹波焼の郷文化観光推進事業」のなかで、文化学術研究事業として、発掘調査を進めています。

今回の発掘調査は、丹波焼850年の歴史のなかでこれまで調査が行われず未解明であった、江戸時代の窯跡について発掘調査を行い、窯の構造や姿を資料として提示し、歴史展示に活用し、成果を多くの皆さんと共有しながら、丹波焼の歴史を探索していくことを目的としています。

また、丹波焼の里においても、丹波焼についての歴史文化を発信していくことが課題となっており、今回の発掘調査は、焼物の里の歴史に関する情報発信につながる絶好の機会ととらえています。

発掘調査の体制はどのようにしましたか。

発掘調査は、長年にわたり眠っていた窯跡の現状を変えることとなります。調査する窯跡や場所、その内容について、兵庫県教育委員会や兵庫陶芸美術館のご指導、陶芸の歴史や考古学の専門家の先生方のご意見をいただきながら、窯跡の保護をはかりつつ、遺構に影響を与えない範囲を選んで慎重に取組みました。

発掘調査をしたのは江戸時代の登り窯跡ということでしたが、丹波焼の歴史のなかで比較的新しい時代とも思えます。

丹波焼の調査は、さまざまな分野で取組まれてきましたが、発掘調査に関わる考古学の分野では、丹波焼の黎明期から室町時代の窯跡や出土品の調査研究が盛んでした。江戸時代から明治時代の窯跡の調査はこれまで行われておらず、伝わった作品や採集された陶片からの美術工芸品的な研究が中心でした。

江戸時代の丹波焼は、それまでの山の斜面を掘り抜いた穴窯に代わって登窯が



写真1 歳月が重なる上立杭本窯跡の窯尻

導入され、自然に付着したのではない、調査した釉薬を意識的に塗り・掛けた器を焼くようになりしました。現代の丹波焼のルーツが誕生した時代とも考えられています。そのころの窯跡の姿は、「丹波焼最古の登窯」に伝わっていると言われていたが、例えば、窯尻「ヒサキ」の煙出しのハチノスや、窯の「ソダテ石」はいつころから使われてきたのか。わかっていないようで、実は解明されていないことが多い、言わば窯跡研究の空白の時代ともいえる状況でした。

発掘調査した登窯を紹介してください。

上立杭と下立杭の登窯については、江戸時代後半の嘉永4年(1851)の『多紀郡明細帳』に、上立杭の窯場として北・本・南の3基の共同窯が記され、下立杭には窯場として「焼物重四筋」の4基の共同窯があったことが知られています。これらの江戸時代の登窯の遺跡のうち、古文書などに記録され地域でも標識的な遺跡とされる、上立杭本窯(中窯)跡と下立杭新窯跡について、発掘調査を実施しました。調査は、窯の時代的な移り変わりを明らかにするため、窯の焼成室(フクロ/焼物を焼くための部屋)の部分と窯の排煙部について調査坑を設けて取りかかりました。

調査の内容はどうでしたでしょうか。

上立杭本窯(中窯)跡は、全長90mを測る登窯の跡で、筒書徳利・壺・壺・描鉢・植木鉢等を焼成しており、17世紀初頭

20世紀前半の江戸時代前期から明治時代ころに操業していたと推定されています。下立杭新窯跡は、全長103.5mを測る登窯で、筒書徳利・壺・壺・描鉢等を焼成しており、18世紀後半から20世紀前半の江戸時代後半から明治時代にかけて操業していた窯と推定されています。調査の結果、両方の窯跡で、窯の操業が終わる段階の19、20世紀の窯床と横口の様子が確認されました。

特に、焼成室の窯床は複数回の補修が行われており、両方の窯跡で、焼成室の境目に高さ30〜35cmの段差が設けられていることがわかりました。

排煙部の周辺は窯の崩落が進んでいて、構造はわかりませんでした。窯の土台として、もとの地盤の上に窯道具や窯澤、山土や石積等で最大90cmのかさ上げをして、窯の高さと傾斜角度を確保していたようすが明らかとなりました。

調査の結果、丹波焼にどのような歴史があったことがうかがえますか。

丹波焼の江戸時代の窯構造のルーツは、最古の登窯などの姿をもとに、多くの研究者から、朝鮮半島由来の「割竹形登窯」であったとされてきました。今回の発掘調査では、「割竹形登窯」であることは確認されましたが、発見された焼成室境の段差からは、少なくとも江戸時代後期の丹波焼窯跡の床面構造には、焼成室境に段差を設けるものと、段差のないものの2系統が存在したことが明らかになりました。



写真2 下立杭新窯跡の段差遺構

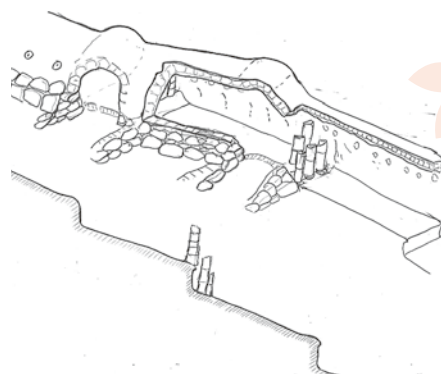


図1 発掘された江戸時代の登窯の想像図

このような登窯の焼成室境にみる段差の有無による2つの系統は、「割竹形登窯」の発祥の地とされる朝鮮半島に起源があり、日本に最初に伝わった時点では九州北部の諸窯にもこの構造は見られました。今回確認された段差は、割竹形の登窯が立杭の里に伝わった江戸時代初期からみられたもので、江戸時代の後半に肥前や京都などの段差のある窯で焼物を焼く地域との交流の結果もたらされたものか、明らかにはできませんでした。また、この頃はじまった青磁を焼く王地山焼や三田焼などは段差のある窯を使っていたので、そうした窯場からの影響を受けた結果、この地にもたらされたものか、いろいろの可能性がうかがえます。調査の結果は、丹波焼の技術交流史を解明するうえで、今後の探求課題となりました。

発掘調査の成果はどのように活用していきますか。

丹波篠山市教育委員会では、今回明らかにした窯跡の写真撮影や図を作る記録作業を進めていきます。あわせて、過去の発掘調査成果なども含めて丹波焼の歴史や歩みを検討し、文化庁補助事業「陶の郷」を中核とした丹波焼の郷文化観光推進事業」にてリニューアルされる「陶の郷」などで展示・公開し、多くの皆さんと発掘調査の成果を共有しながら、「日本遺産六古窯」丹波焼850年の歴史を紹介していきます。

写真・図 山崎敏昭 編集 迫田隆

●開館20周年記念特別展のご案内

MINGEI ALIVE —いま、生きている民藝

9月6日(土)～11月24日(月・振休)

およそ100年前に柳宗悦(1889-1961)によって提唱された「民藝」。それは日々の暮らしに寄り添うものに美を見いだすという新しい価値観であり、提案でした。本展では、当館のコレクションの核の一つである個人作家による器(うつわ)作品を展覧しつつ、現代の作家の様々な器作品を通じて、「いま、生きている民藝」の諸相について考える機会とします。



田中雅文《Layer.series CLOUD 5》
2018年

丹波焼の美 —田中寛コレクションを中心として—

12月6日(土)～2026年2月23日(月・祝)

当館は、全担バス株式会社社長の田中寛氏(1904～81)が収集した丹波焼を中心とする兵庫県内の主要な窯場で生み出された陶磁器コレクションを母胎として2005年に開館しました。本展は、田中寛コレクションの丹波焼を中心として、氏が情熱を注いだ丹波焼を紹介し、その魅力に迫ります。



丹波 <壺 銘「猩々」>
鎌倉時代
兵庫陶芸美術館(田中寛コレクション)
兵庫県指定重要有形文化財

This is SUEKI —古代のカタチ、無限大! —

2026年3月20日(金・祝)～6月14日(日)

日本各地で豊富な副葬品を有する屈指の墳墓が作られた古墳時代は、日本のやきもの史上最大のイノベーションとなった、新たなやきもの「須恵器」が登場した時代です。本展では、各地の遺跡から出土した、古墳時代から平安時代までの須恵器の優品を古代人の創造力や技術力とあわせて紹介します。



《台付子持四連壺》
6世紀 豊田大塚古墳出土
豊田市博物館
重要文化財

●テーマ展のご案内

丹波焼の世界 season9

1月2日(木)～2026年2月23日(月・祝)

2017年に日本六古窯の一つとして日本遺産に認定された丹波焼は、平安時代末期に、在地の土師器や東播系中世須恵器の技術基盤のうえに、東海地方の窯業技術などを受容して開窯しました。本展では、時代の荒波を乗り越えて、今も操業し続けている丹波焼の移り変わりを紹介します。



丹波《白地銅緑線流徳利》
江戸時代後期
兵庫陶芸美術館

兵庫陶芸美術館 〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4 電話: 079-597-3961 (代表) HP <https://www.mcart.jp>

丹波焼の里情報コーナーのご案内

「民藝 -starting point in TAMBA-」

9月5日(金)～11月23日(日)

「丹波焼と彩り」

12月5日(金)～2026年2月22日(日)

兵庫陶芸美術館 展示棟入口横 観覧無料

企画: 陶芸文化プロデューサー

協力: 丹波焼窯元等

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

●応募方法

ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(○美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

●締め切り 2月末日消印有効。

●宛先

〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」
『ミュセレーター38号 プレゼント係』宛
当選発表は発送をもって代えさせていただきます。

○ぬくもりの郷
「郷めぐり」特別入浴券を陶の郷にて販売
10月11日(土)

▼問合せ ☎079-597-3961
7



兵庫陶芸美術館

○兵庫陶芸美術館
ミュージアムマルシェ
10月18日(土)・19日(日)エントランス棟前広場
先着50名様に丹波焼小皿を贈呈(両日とも)
・陶芸文化プロデューサーによる、最古の登窯案内、旬の野菜と焼き芋などの販売
・ワンコインコンサートや、その他様々なイベントを開催します。

○各窯元
・窯元めぐり市
・スタンプラリー



陶器まつり特設サイト

・窯元イチ推し展 期間中開催
・丹波焼うつわ市 2025 10月11日(土)・12日(日)
・陶の里マルシェ 10月11日(土)・12日(日)
・13日(月祝)・18日(土)・19日(日)
・チャリティガチャポン 10月18日(土)・19日(日)
・平日クイーン抽選

○陶の郷(丹波立杭陶磁器協同組合)
▼問合せ ☎079-597-2034

第48回 丹波焼陶器まつり「秋の郷めぐり」
丹波焼の魅力あふれるイベントが開催されます。
【期間】10月10日(金)～10月19日(日)
※10月14日(火)陶の郷営業(各種イベントも開催)

イベント案内

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL.<https://tanbayaki.com>

【入園料】高校生以上 200円

小中学生 50円

【開園時間】AM10:00～PM5:00(通年)

【休園日】年末年始

毎週火曜日

(但し、祝日は営業します。)

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の51軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしくあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティストックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分で歩いてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸を体験してみませんか。オリジナルの作品を制作する手びねり(粘土細工)や、カラフルな絵付けを手軽に体験していただけます。また、毎週日曜日には予約制で「ガラメンアクセサリーワークショップ」を開催しております。是非ご利用ください。